

事業名 大雪発「北海道で大冒険ざんまい」

★事業の概要★

委託事業

- 主催 文部科学省 農林水産省 日本フードサービス協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 主管 国立大雪青少年交流の家

事業のねらい

東日本大震災で、様々な影響を受けた子供たちの心身のリフレッシュを図るために、北海道の雄大な自然を満喫する機会、おおらかな北海道人との多くの出会いの中でふれあいと絆を深める機会、北海道の大地で育った安心・安全な新鮮食材を味わう機会を提供する。

期 日

平成25年8月7日（水）～ 8月13日（火）

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

岩手県釜石市内中学生

参加者数：参加募集人数

10名（男女各5名）：10名（男女各5名）

協力団体・機関

共催 北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会
 協賛 旭川市 旭川市旭山動物園 苫小牧市 (株)雪印パーラー NPO 法人どんころ野外学校 美瑛ライオンズクラブ 永井商店 (株)大塚製薬 嵯城グループ
 後援 北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会 上川管内教育委員会連合会 美瑛町 美瑛町教育委員会 美瑛町図書館
 協力 北海道山岳連盟 美瑛山岳会 美瑛町校長会 美瑛中学校 白金観光組合 和太鼓による創作活動を考える会研究会 陸上自衛隊上富良野駐屯地

日 程

日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
8月7日 (水)	～いよいよ“ざんまい”いっぱい冒険旅行が始まる～									釜石駅出発式→バスの旅・出 会いのつどい 仙台港出航！	夕食 バイキング	船中泊ドキドキの 「旅」 “友情” わく わく体験説明会	就寝						
8月8日 (木)	起床 ～船上デッキで ラジオ体操～ 朝食 バイキング	苫小牧西港着 (11:00)	ホッキ水揚げ日本一！ “ホッキカレーざんまい” 苫小牧公設市場見学				大雪着！	オリ	夕食	“川冒険” について “アイヌの伝統文化” (学習会)	入浴	就寝							
8月9日 (金) どんころ泊	起床 準備	朝食 活動準備	バス旅1	“川(清流シーソラブチ川)”ざんまい！ 南富良野でラフティング体験(どんころ野外学校) 五右衛門風呂で大はしゃぎ						ざんまい タイム	就寝								
8月10日 (土)	起床 準備	「さわやか 体操」 「ワイルド 朝食」	バス旅2	日本最北の動物園！ 旭山動物園 動物ふれあいざんまい	昼食	“美味ジンギスカン”ざんまい！ 農産加工体験・地元中学生と交流 I			ざんまい タイム	入浴	就寝								
8月11日 (日)	起床 準備	朝食	“山”ざんまい！ めざせ 標高2077M 十勝岳からの絶景ざんまい				入浴	夕食 休憩	ざんまい タイム	ホワイト・タイム	就寝								
8月12日 (月)	起床 準備	朝食	「自衛隊との交流」 ありがとうを伝えよう	昼食	音楽の出会い			夕食 休憩	ラストナイト ファイア	入浴	就寝								
8月13日 (火)	起床 準備	朝食 清掃活動	ぼくらの絆 ぼくらの誓い わかれのつどい	“北海道ウォッチングざんまい” 美瑛町(青い池)など道内景勝地 飛行機で“空旅・駅弁ざんまい”															

★プログラム紹介★



川ざんまい（清流シーソラブチ川）

大自然の中をラフティングで駆け抜ける体験。南富良野町にて山小屋泊も体験。



美味ジンギスカンざんまい

美瑛中生徒、美瑛ライオンズクラブとジンギスカンを囲み、ゲームで交流を深めた。



動物ふれあいざんまい

日本最北の旭山動物園を見学。行動展示で有名になった園内の多くの動物を観察。



農産物加工ざんまい

新鮮・安心の美瑛の食材でドロップクッキーとアイスクリームづくりに挑戦。



山ざんまい

日本百名山の十勝岳を登山。10名で達成感をかち合った。



自衛隊との交流ざんまい

被災地釜石市に訪れた上富良野自衛隊との交流会。「感謝」を伝えるふれあい集会。心を込めて書いた手紙を渡した。

企画・運営のポイント

東日本大震災が与えた多くの悲しみを風化させないことを前提とし、夏休み期間に北海道の雄大な自然を舞台にした多くの体験・出会い・思い出づくりをテーマに、心身のリフレッシュを図ることを目的とした企画。

さらには「新しい公共」型の管理運営を意識して、外部機関及び関係団体との連携によって運営することがポイントである。

事業を終えて（成果と課題）

交流の家独自の事前調査（保護者・参加者）から、プログラムデザインに修正を加え、より充実した事業化を目指したことにより、参加者とその家族の満足度が高い結果となった。

文部科学省等からの委託事業であり、パイプ役となる機構本部と密な連携と情報の共有を図りながら運営することが重要と考える。事業後においては、主管の交流の家が発展的の事業につながるための分析を進め還元していくことが責務である。

今後の方向性

本事業の取組について成果物を作成し、外部機関への普及と啓発に努める。また、被災地域が当交流の家を研修支援団体として利用する際、プログラム相談の中でアクティビティ紹介を行い、より充実した研修につなげる。